

## 協議員から出された意見

## 第16回協議会

## 外環に関する方針について

意見

- ・外環に関する方針についての資料図面と知事が記者会見で用いた図面が違うことや、アンケート結果をポスティングすることについて事前に協議会に説明がなく、協議会を軽視しているのではないかと。  
【提出資料補足説明】(栗林協議員)
- ・外環の方針として、1.外環整備は早く、安く完成できるよう考慮し、沿線への影響を小さくする。2.インターチェンジは、地元の意向を踏まえ設置の有無について検討する。3.地元において地上部整備の方向が定まった場合、その整備を支援していく。4.この方針について、幅広い意見や意向を把握するため、わかりやすい資料や情報の提供を行う。
- ・大臣の記者会見の概要は、大深度地下の活用を基本とし、地元の意向を踏まえ、意見の集約を図ることで、東京都と合意した、ということ。  
【提出資料補足説明】(大寺協議員)
- ・知事の会見では、この方針を軸に意見を聞き、外環道の早い完成について詰めていきたいとしている。  
【提出資料補足説明】(成田協議員)
- ・青梅街道にインターチェンジが設置されることについては、如何なる構造であっても絶対反対である。  
【提出資料補足説明】(宿澤協議員)
- ・3月14日の大臣、知事の発表について、都に抗議文を渡した。抗議文に対して都からの回答では、方針は決まったことではなく議論の軸になるものということ。  
【提出資料補足説明】(渡辺協議員)
- ・外環に関する方針の報道について、国及び都の対応は信義則に反するとともに信頼関係を著しく損なうもの。とりわけ都の対応については、昭和41年における教訓が全然生かされていない。  
【提出資料補足説明】(倉田協議員)
- ・この方針を軸に地元の意向等を把握し、PI等の議論を進めて決めていきたい。(大寺協議員)
- ・今回の新聞報道の仕方は誤解を招く。信頼関係を損ねるようなやり方は反省すべき。(柴田協議員)
- ・青梅街道から目白通りの地上部について、地元意向を踏まえながらということは、どこからか要望があったのか。今の段階で何故、波乱材料になるものを出さなければならないのか。(武田協議員)
- ・記者会見のパネルは分かり易く説明するため、街路の部分に点線を入れたり、青梅街道の断面図を矢印で示したものである。(成田協議員)
- ・本来、方針を決めるためにPI協議会で住民の意見を聞いているのではないかと。こういうことが何回も続く様ならPIは止めた方がいい。(新協議員)
- ・図面は同じもので無い。この資料の出し方は、東京都が自分たちの好きな方向に誘導させるためのやり方。(濱本協議員)
- ・提案するものが区市長、議会、協議会に伝える前に新聞に出てしまう。地元の区市長には早くお出ししたいが、決定権者から発表するので、タイムラグがあることはご理解いただきたい。
- ・青梅街道～目白通り間の地上部の要望は練馬区の岩波区長と練馬区議会の外かく環状道路建設促進議員連盟から書面で要望が出ている。(成田協議員)
- ・区市によって示された図面が異なることは、重要な問題点である。(倉田協議員)
- ・大深度を利用した場合、大深度の区間だけで何%くらい大深度を利用できるのか。今まで都市計画で制限されてきた人達に対する補償、手だてはあるのか。
- ・地上部を買収したあとで利用法を考える形を考えて頂きたい。(小林協議員)
- ・大深度地下は通常利用されない空間と考えられており、補償すべき損失が発生しないというのが法律が想定しているところ。ただし、井戸等については例外がある。(伊勢田協議員)
- ・大深度となった場合、基本的には補償はない。現在、生活再建を考えておられる方々には買い取り請求に対する対応措置ということで準備している。(成田協議員)
- ・アンケート結果の配布については、配慮が不足していた点について反省している。今後は注意していきたい。(伊勢田協議員)

## 必要性の有無（効果と影響）について

意見

- ・都市づくりビジョンは住んでいる住民の気持ち、都民の気持ちが反映されたものではない。  
・メガロポリス構想も東京の人口が半分にならないと達成できないと思う。  
【提出資料補足説明】（新協議員）
- ・外環ができれば都内の渋滞が緩和されて環境が良くなると説明されているが、開通区間を見るとそうっていない。なぜそうなったのか、その原因を解明していただきたい。
- ・沿線地域の大气汚染、騒音、振動の検討する際には設計交通容量を使って頂きたい。  
【提出資料補足説明】（江崎協議員）
- ・外環計画の意味がないと社会的判断がなされれば事実上計画を休止することもあり得る。環境アセスメントの中で影響について予測評価を行い、開通後は、事後的な調査も行うことで検討していく。
- ・構想段階だけに限らず将来も広く住民の声を聞くことが非常に大事。
- ・今後のP Iの進め方についてもご意見を頂きながら進めていきたい。
- ・外環道路は、関越道から東京湾岸道路まで接続することで環状道路のネットワークが効果的に発揮されると考えている。広域的なネットワーク、道路の必要性などを整理しながら外環の関越道～東名間の調査の検討を優先的に進めていきたい。大泉とか東名と接続した場合の端末の問題についても周辺の道路に与える交通負荷などを十分に検討していきたい。
- ・安全性についても多くの方からご意見をお聞きし専門家の意見を伺うなど総合的に判断していきたい。
- ・P I協議会の共同宣言についてはとりまとめられるものがあれば必要に応じてとりまとめていきたい。  
（大寺協議員）
- ・外環本線の予測交通量を出してください。  
（江崎協議員）

## その他

意見

- ・論点項目の整理は運営懇談会で検討させていただきたい。  
（江崎協議員）
- ・ここで協議されていることが都知事、都議会にどう伝わっているのか。  
（新協議員）
- ・知事には定期的に議論の方向性について報告している。  
（成田協議員）
- ・この議事録は知事に届けていただきたい。  
（新協議員）
- ・沿線協議会の資料、議事録は本省の道路局に協議会ごとに報告している。本省の道路局の担当課から適宜、大臣に説明して指示を頂いていると聞いている。国会の交通関連の伺いも本省の方から課の方にいっているだろうと聞いている。  
（大寺協議員）
- ・協議会としてのアピールという場合には、両論併記でなければ困る。  
（湯山協議員）
- ・緊急アピールは原点から考えていくということで、P I沿線協議会全体でいいのではないか。  
（橋本協議員）
- ・緊急アピールは「P I外環沿線協議会」として出すのは矛盾がある。  
（栗下協議員）
- ・緊急アピールの趣旨は解るが、今日突然、「P I外環沿線協議会」という名前で出てくるのは事務的にもおかしい。  
（武田協議員）